

～技法を学び楽しく描こう～  
第13期 楽しい水彩・パステル

【7月の活動報告】

7月7日（月）水彩技法（2）色々な描き方、鉛筆淡彩で描く

- 構図とは作品の中の様々な要素を調和のとれた一つのものにまとめること
  - ・ 対象をどのくらいの大きさで描くかは重要
  - ・ 水平線をどこに設けるかで構図が変わる
  - ・ 構図のバランスを考え、モチーフを意図的に適切な場所に置く
- 鉛筆淡彩とは鉛筆デッサンに薄く溶いた絵具を色少なめにさらっと塗ることで、なるべく一回塗り仕上げる
  - ・ 鉛筆デッサンは重要な段階であり、しっかり時間をかけて鉛筆でとらえて描くと着彩の作業がはかどる
- 色彩技法
  - ・ 暗い色彩の上に明るい色彩を重ねることはできない
  - ・ 白い部分や明るい色彩のところは前もって残さなければならない（マスキングなど）
  - ・ 不必要な重ね塗りは避ける

※午後は各自の実技の中で先生から指導を受けた

7月14日（月）水彩静物（1）光の方向と影、パステル1（講義）

- ・ 光の方向には正面、斜め、側面、後方の4種類があるが、それぞれに独特の心理作用があり、大きな表現手段になりうる
- 影がなぜ必要なのか
  - ・ 影は碇の役目を果たし、物体とそれが立っている場所をつなぎとめる
  - ・ 影を描くことにより画面を面白くすることができる
- 影の描き方
  - ・ 題材と影との境界がハッキリしない方が自然な感じになる
  - ・ 描き過ぎは禁物、影にもそれなりの輝きがなくてはならない
- パステル（1）歴史
  - ・ パステルの歴史、パステルの特徴、パステル絵具の種類、パステル用画用紙などについて学んだ

※午後は各自の実技の中で先生から指導を受けた

## 7月28日（月）水彩静物（2）モチーフの組合せ・構図、パステル2（技法デモ）

### ①「静物画を描く」ための講義

#### ●題材の選び方について

- ・数種類の形にそれぞれ大中小といった大きさの変化があるもの、また材質や色の異なるものが、変化が表現できて好ましい
- ・題材をオーバーラップさせる（奥行きを出すために重ねる）
- ・題材の明度や色相にも工夫が必要で、後方から明暗、明暗の繰り返しにする

#### ●制作プロセス

- 1) 鉛筆デッサン
- 2) 背景の広い面から一気に平塗する
- 3) 大きなモチーフから塗っていく。他の題材を太い丸筆一本でのびのびと描く
- 4) 各題材の固有色に明暗の調子を加えていく

### ②パステル（2）技法

- ・先ず、土方先生から色々のパステルの技法について講義があった
- ・その後、各技法について土方先生が実際にデモンストレーションしていただいた

※午後は各自の実技の中で先生から指導を受けた。

《先生によるパステル技法のデモ風景》

